



柏崎市教育委員会 博物館
埋蔵文化財係 学芸員

品田 高志

SHINADA TAKASHI

1958年 柏崎市出身

柏崎市には国指定となっている弥生時代の「下谷地遺跡」、本県最大規模の製鉄遺跡「軽井川南遺跡群」、3年前に発見された国内最北の大型掘立柱建物跡（弥生時代後期）とみられる「西岩野遺跡」など貴重な遺跡がある。文化財保護法に基づいて柏崎の遺跡の保存・保護を担う唯一の場所が市内西山町にある埋蔵文化財事務所である。

長年、埋蔵文化財の調査・研究・保護に携わってきた学芸員の品田高志さんは「現代人にとってすべてが新発見のもの。誰も知らないことを調べたり研究することが考古学の魅力」と話す。

子供の頃から歴史好きだったという品田さんは大学時代に考古学研究会へ入会。そして大学1年の夏、小学生の頃から土器や石器を集めていた考古少年といわれる同年齢の友人に出会ったことが大きな転機となった。その友人は石を見ただけで縄文人が割ったものか碎石なのか一目でわかる。「負けないように論文を読むなど勉強を重ねていくうちにおもしろくなり、どんどんはまっていった」という。

大学で学芸員資格を取得し市役所初めの学芸員、埋蔵文化財の担当職員として仕事をしてきた品田さんは、2013年に初めて市立博物館に異動。リニューアルの

際には博物館2階考古学ゾーンにも力を入れた。精巧なジオラマは人形の細かな動きや鉄生産の様子など8～11世紀当時を想像させる描写で見応えもあり「ぜひ多くの人に見ていただきたい」と語る。

昨年からは念願だった埋蔵文化財事務所に戻ることができ、発掘調査報告書のまとめを継続して行っている。この発掘調査報告書はやがて大学など研究者たちによって活用され地域の歴史解明につながったり、博物館の企画展・特別展で公開されるなど成果はもう一度市民に還元される。

遺跡の調査は何年もかかることがあり、長い時間をかけて調査をする分苦労も多い。しかし、それをやらない限り正確なことを胸を張って語ることはできないという。遺跡は現状のまま将来にわたって保存していくことが理想だが、宅地造成や道路の改良工事など人々の生活や便利さのために壊されていくことも多い。そのため、それを発掘調査し記録・保存していくことは大切な仕事なのだ。

「遺跡の調査は見落とししたらそこで終わり。工事が入ってしまったら誰もわからないまま無くなってしまう。常に現場は真剣勝負。だからこそ楽しい」と笑顔を見せる。

考古学で柏崎の地域史をまとめることが40年来の目標という品田さん。地域史ができることでそれぞれの地域の違いが見えてくる。地域史が集まることで新潟県史、東北史、東日本史へつながっていくと期待を込める。



お問い合わせ

柏崎市 埋蔵文化財事務所
柏崎市西山町坂田366
TEL・FAX 0257-47-2003